科 目 名	Ｊ４―１（文型・文法）		
担 当 者	春学期：金庭 久美子（Kaneniwa, Kumiko） 秋学期：浅野 有里（Asano, Yuri）		
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各１単位

授業の目標

初級修了レベルの学習者を対象とし,初級で学習した文法事項,文型を復習しながら,それらが正しく,流暢に使えるようになることを目指す。学生が知識として持っている文型や語彙を,日常生活の様々な場面で活用できるレベルに高めることを目指す。

授業の内容

初級レベルでは別々に勉強した文型を複数組み合わせて,より日本語らしい文や,長くて複雑な文を作成できるような練習を行う。短文作成のような練習を通して,正確な日本語を産出する練習を行うとともに,口頭での発話練習も同時に行い,日常会話の中で,実践的に日本語を使う練習を行う。

授業計画

初級文法,文型の復習を行い,個々の学生が正しい日本語を産出できるようにするとともに,それらを複数組み合わせて,自然な日本語が使えるための練習を行う。毎回,テキストの予習と,短文作成などの宿題を課す。全14回の授業計画は以下の通りである。

1. オリエンテーション,プレレッスン
2. 受身・自発
3. 使役・使役受身1
4. 使役・使役受身2
5. 尊敬語
6. 謙譲語
7. 「ように」を使った表現
8. 中間テスト
9. 「ばかり」を使った表現
10. 「限り」を使った表現
11. 「意向形」を使った表現
12. 名詞修飾
13. Review
14. 期末テスト

成績評価方法・基準

クラスへの参加度 30%,
課題・宿題 30%,中間テスト 10%,
期末テスト 30%

テキスト

プリント教材をテキストとして使用する。
テキストには,項目ごとに多数の例文が提示されており,その文型を使用した適切で自然な日本語が学習できるようになっている。

参考文献

指定せず。

準備学習・その他（HPなど）

テキストの予習を毎回の宿題として課す。その他,必要な準備学習については,毎回の授業で指示する。

科 目 名	Ｊ４―２（読解）		
担 当 者	春学期：山内 薫 (Yamauchi, Kaori)　秋学期：高嶋 幸太(Takashima, Kota)		
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各１単位

授業の目標

初級修了レベルの学習者を対象とする。様々な分野の読解教材を数多く読み,徐々に長い文章にも対応できるようにしていく。読解を通して使用語彙,理解語彙を増やすとともに,初級文型や初級語彙が使用語彙にまで高まるような練習を行う。また,文章中に意味の分からない語が出てきた場合に,辞書を引かなくても,前後の文脈から意味を推測して読み進めることができるような練習を行う。

授業の内容

様々な分野の読解教材を軸として,読みのスキルの学習,内容把握などを行う。また,筆者の主張や論点を要約する練習も行う。さらに,ディスカッションを通して,内容に関する理解を深める。毎回,語彙力をつけるために,文章内の新出語彙を使用した短文作成を宿題として課し,次週に語彙クイズを行う。

授業計画

小説,エッセイ,新聞や雑誌の記事などの様々な文章の読解を行う。全14回の授業で扱う文章のジャンルは以下の通りである。文章の長さは900字～1600字である。

1. 説明文1
2. エッセイ1
3. 記事
4. 説明文2
5. 説明文3
6. エッセイ2
7. 説明文4
8. 物語
9. 説明文5
10. 速読
11. エッセイ3
12. 速読
13. Review
14. 期末テスト

成績評価方法・基準

クラスへの参加度　30％,課題・宿題　40％,期末テスト　30％

テキスト

プリント教材をテキストとして使用する。

参考文献

授業で適宜紹介する。

準備学習・その他（HPなど）

毎回,テキストの予習を宿題として課す。その他,必要な準備学習については,毎回の授業で指示する。

科 目 名	Ｊ４―３（作文）		
担 当 者	春学期：浅野 有里（Asano, Yuri）　　秋学期：保坂 明香（Hosaka, Asuka)		
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各１単位

授業の目標

初級修了レベルの学習者を対象とし,初級で学習した語彙や文型の定着及び応用力の養成を目的とする。具体的には,それらを使って正しい文章(単文だけでなく,複文も含む)が産出できるようになることを目指す。また,400字～600字程度の短い文章が適切な構成で書けるようになることも目標とする。

授業の内容

初級で学習した語彙や文型を複数組み合わせて,長い1文を作成する練習を繰り返す。単に意味が通じるだけでなく,助詞の間違いや語彙レベルの不適切さなどにも注意を向け,自然で洗練された日本語を作る練習を行う。

授業計画

単にパターンや構成の導入のみでなく,それらを使った作文を重要視して授業を進める。全14回の授業計画は以下の通りである。

1. オリエンテーション,プレレッスン
2. 定義①
3. 意見①
4. 分類
5. 比較・対照①
6. 根拠・判断①
7. 定義②
8. 比較・対照②
9. 意見②
10. 換言・例示
11. 根拠・判断②
12. ことわざの説明
13. Review
14. 期末テスト

成績評価方法・基準

クラスへの参加度　30％,課題・宿題　40％,期末テスト　30％

テキスト

プリント教材をテキストとして使用する。テキストは以下のような2部構成になっている。

Part1:初級文型を複数組み合わせた文型,及び初中級レベルの新しい文型の学習

Part2:Part1で学習した文型を複数組み合わせたパラグラフライティング

参考文献

授業で適宜紹介する。

準備学習・その他(HPなど)

必要な準備学習については,毎回の授業で指示する。

科 目 名	Ｊ４―４（聴解・会話）		
担 当 者	春学期：数野 恵理 (Kazuno, Eri), 高嶋 幸太（Takashima, Kota） 秋学期：山内 薫（Yamauchi, Kaori)		
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各１単位

授業の目標

初級修了レベルの学習者を対象とし,日常生活における様々な場面での聴解と会話能力の育成を目指す。相手の話すことを正確に把握し,それに対して自分の意見等を正しい日本語できちんと発表できるようになることを目標とする。

授業の内容

授業はスピーチ,会話,聴解の3部構成になっている。スピーチでは,自分の意見を整理して,構成を意識しながらわかりやすく伝える練習を行う。会話では,初級で学習した表現の復習や会話特有の表現(縮約形,助詞の省略,あいづちなど)の学習を行い,それらを使用する会話の練習を行う。スピーチと会話ともに,流暢さだけでなく発話の正確性を重視する。聴解では,CD などの教材をもとに,まとまった内容を聞いて大意把握や情報取りなどが適切にできるように練習を行う。さらに,聴解の内容についてのディスカッションを行う。

授業計画

日常生活,大学生活の中の様々な場面を取り上げ,ロールプレイなどの方法を取り入れながら,授業を行う。

全14回の授業で扱う会話の内容は以下の通りである。

1. 自己紹介
2. 苦情を言う
3. 誘う、断る
4. 依頼する①
5. スピーチ①
6. スピーチ②
7. 依頼する②
8. 言い訳をする
9. 人について説明する①
10. インタビュー①
11. インタビュー②
12. 人について説明する②
13. 描写する
14. 期末テスト

成績評価方法・基準

クラスへの参加度　30％,課題・宿題　40％,期末テスト 30％

テキスト

『ロールプレイで学ぶ　中級から上級への日本語会話』(アルク)

『新・毎日の聞きとり50日』(上)(下)(凡人社)

などを適宜使用する。

参考文献

授業で適宜紹介する。

準備学習・その他（HPなど）

必要な準備学習については,毎回の授業で指示する。

科 目 名	Ｊ５―１（文型・文法）		
担 当 者	春学期：小林 友美（Kobayashi, Tomomi），草木 美智子（Kusaki, Michiko） 秋学期：長島 明子（Nagashima, Akiko）		
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各１単位

授業の目標

初中級修了レベルの学習者を対象とする。初中級で学習した文法事項,文型を復習しながら,エッセイや会話などで頻繁に用いられる中級文型を紹介し,練習する。学生が知識として持っている文型や語彙を増やすだけでなく,それらを日常生活の様々な場面で活用できるレベルに高めることを目指す。

授業の内容

日常会話や書き言葉の中で使われる文型や語彙の学習を行う。単に導入するのではなく,既習項目との違いを整理しながら新しい文型を実際の会話や書き言葉の中で正しく使う練習を重視する。

授業の内容は2部構成になっている。

Part1:助詞相当語の導入・練習

Part2:主要項目の導入・練習・発展

Part1では,毎回2～4個の助詞相当語を扱う。Part2 では,初級の復習に加えて,それを発展させた文型や表現を学習する。

授業計画

初級文法,文型の復習を行い,個々の学生が正しい日本語を産出できるようにするとともに,新しい文法事項,文型（会話の文型,読みの文型）の導入や練習を行う。毎回,テキストの予習と,短文作成などの宿題を課す。

全14回の授業計画は以下の通りである。

1. オリエンテーション・プレレッスン
2. こそあど
3. と/ば/たら/なら
4. 「こと」を使った表現（1）
5. 「こと」を使った表現（2）
6. 「もの」を使った表現（1）
7. 「もの」を使った表現（2）
8. 中間テスト（フィードバックを含む）
9. 時間の表現
10. 「わけ」を使った表現
11. 日常会話で使用する副詞
12. 「量が多い」ことをあらわす表現,「よく」の使い方
13. Review
14. 期末テスト

成績評価方法・基準

クラスへの参加度　30％,課題・宿題　30％,中間テスト　10％,期末テスト　30％

テキスト

プリント教材。

参考文献

指定せず。

準備学習・その他（HPなど）

テキストの予習を毎回の宿題として課す。その他,必要な準備学習については,毎回の授業で指示する。

科 目 名	Ｊ５―２（読解）		
担 当 者	春学期：保坂 明香（Hosaka, Asuka）秋学期：神元 愛美子（Kamimoto, Emiko）		
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各１単位

授業の目標

初中級修了レベルの学習者を対象とする。身近な話題について書かれた文章を読めるようにする。 様々なスタイルの文章に触れ,読みのスキルを伸ばす。また,意味の分からない語が含まれる文章を,文脈を活用するなどして,辞書を使わずに読めるようにする。 さらに,読解を通して使用語彙,理解語彙を増やす。

授業の内容

説明文,エッセイ,新聞記事,小説など様々なスタイルの読解教材を取り上げ,読みのスキルの学習,内容把握などを行う。読んだ内容に基づいた話し合いも行う。また,語彙を増やすために,指定された語彙の小テストを毎回行う。

授業計画

1. オリエンテーション,読み方について考える
2. 手紙文を読む
3. 背景知識を生かして読む
4. 予測・推測して読む
5. 予測・推測して読む
6. 言葉の意味についての記事を読む
7. 調査結果を述べた記事を読む
8. 社会問題についての記事を読む
9. 筆者の意見を読み取る
10. 複数の意見が書かれた記事を読む
11. 複数の意見が書かれた記事を読む
12. 小説を読む
13. 小説を読む
14. 期末テスト

成績評価方法・基準

クラスへの参加度 30％,課題・宿題 40％,期末テスト 30％

テキスト

プリント教材。日本語学習者向けの教材と生教材を併用する。

参考文献

授業で適宜紹介する。

準備学習・その他（HPなど）

必要な準備学習については,毎回の授業で指示する

科 目 名	Ｊ５―３（作文）		
担 当 者	春学期：長島 明子 （Nagashima, Akiko） 秋学期：金庭 久美子（Kaneniwa, Kumiko）， 三浦 綾乃 （Miura, Ayano）		
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各１単位

授業の目標

初中級修了レベルの学習者を対象とする。初中級で学習した語彙の定着,およびさらに語彙数を増やすこと,および初中級で学習した文型を使って,レポートや作文を書く力をつけることを目的とする。

授業の内容

教室ではレポートや作文の構成,要約について学習し，800字から1,000字程度の作文を書き,それについてのフィードバックを行う。

授業計画

単にパターンや構成の導入のみでなく,それらを使った作文を重要視して授業を進める。授業内の作文課題に加え，作文課題を宿題として課す。
具体的な授業計画は以下のとおりである。

1. オリエンテーション,プレレッスン
2. 作文の基本ルール①
3. 作文の基本ルール②
4. 構成①
5. 構成②
6. 構成③
7. 要約①・フィードバック
8. 要約②
9. 意見文
10. 提案・解決策の提示
11. 意見に賛成／反対する
12. 賛成・反対の両面から論じる
13. フィードバック
14. 期末テスト

成績評価方法・基準

クラスへの参加度 40％,課題・宿題 30％,期末テスト 30％

テキスト

プリント教材を課ごとに授業内で配布する。作文のルールや書き言葉のルール,構成,要約のしかたについて学び,さまざまなテーマで作文を書く。

「将来の計画,このクラスで学びたいこと」

「外国人労働者受け入れ」

「共働き」

「男女共同参画社会」

「英語学習ブーム」

などのテーマを扱う。

参考文献

授業で適宜紹介する。

準備学習・その他（HPなど）

必要な準備学習については,毎回の授業で指示する。

科 目 名	Ｊ５―４（聴解・会話）		
担 当 者	春学期：小林 友美（Kobayashi, Tomomi），神元 愛美子（Kamimoto, Emiko） 秋学期：小林 友美（Kobayashi, Tomomi），草木 美智子（Kusaki, Michiko）		
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各１単位

授業の目標

初中級修了レベルの学習者を対象とし,日常生活における様々な場面での聴解能力と会話能力の育成を目指す。相手の話すことを正確に把握し,それに対して自分の意見等をきちんと話せるようになることを目標とする。また,人前で日本語を使って発表ができるようになることも目標とする。学期終了後には,語彙数6,000,アカデミック場面を含め,日常での一般的なことについてインプット,アウトプットが出来るようになることを目標とする。

授業の内容

聴解と会話・ダイアローグの練習では,テープ教材をもとに,「勧誘」「許可」「提案」などの機能を取り上げ,日常での「カジュアルな場面」と「改まった場面」での言い方の違いを勉強する。その際,内容の聞き取り,ターゲット表現の発話練習を行い,ロールプレイの発表へとつなげる。

会話・モノローグの練習では,学期中に2回発表およびそれについての意見交換などを行う。どちらも改まった場面では,敬語を使う練習をする。

授業計画

日常生活,大学生活の中の様々な場面を取り上げ,ロールプレイやプレゼンテーションなどの方法を取り入れながら,授業を行う。 以下14回の授業計画を示す。

1. オリエンテーション,聴解練習
2. 第一回目スピーチ準備,「勧誘」練習
3. 第一回目スピーチ「勧誘」練習
4. 第一回目スピーチ,「勧誘」練習
5. 第一回目スピーチ,聴解練習
6. 第一回目スピーチ,「許可」練習
7. スピーチフィードバック,「許可」練習
8. 第二回目スピーチ準備,「許可」練習
9. 第二回目スピーチ,聴解練習
10. 第二回目スピーチ,「提案」練習
11. 第二回目スピーチ,「提案」練習
12. 第二回目スピーチ,「提案」練習
13. スピーチフィードバック,
期末テスト1:聴解
14. 期末テスト2:会話

成績評価方法・基準

クラスへの参加度　30％,課題・宿題　40％,期末テスト　30％

テキスト

『中上級日本語音声教材・毎日の聞き取りplus40上』(凡人社),『聞いて覚える話し方日本語生中継・中上級編』(くろしお出版)などを適宜使う。

参考文献

指定せず。

準備学習・その他(HPなど)

必要な準備学習については,毎回の授業で指示する。スピーチの準備として,グラフや表を自分で探すことや,原稿を準備することは,教室内では行わないため,宿題となる。また,スピーチの発音練習は教室内でも行うが,練習が不足していると思う場合は，教室外でも練習をすることが望ましい。

科 目 名	Ｊ６―１（文型・文法）		
担 当 者	春学期：草木 美智子（Kusaki, Michiko） 秋学期：小林 友美（Kobayashi, Tomomi），長島 明子（Nagashima, Akiko）		
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各１単位

授業の目標

中級前半修了レベルの学習者を対象とする。日常会話や小説などで用いられるやや高度な文法,文型の理解を目的とする。

授業の内容

専門書,新聞記事,小説などの中で使われる文型や語彙の学習を行う。単に導入するのではなく,既習項目との違いを整理しながら,新しい文型の意味・用法を学習する。また,文法や文型を理解するだけでなく,書き言葉の中や日常生活の会話の中で,実際に使う練習を重視する。日本語の産出においては,流暢さだけでなく,正確な日本語をアウトプットできるように練習を重ねる。

授業の流れは以下のようになっている。

1)既習の文法・文型項目の復習

2)既習の文法・文型項目の整理・発展

3)理解確認

4)新しい文法・文型項目の導入・説明

5)理解確認

6)復習

授業計画

新しい文法事項,文型（会話の文型,読みの文型）の導入や練習を行う。毎回,テキストの予習と,短文作成などの宿題を課す。

全14回の授業計画は以下の通りである。

1. オリエンテーション・プレレッスン

2. 理由・目的の表現

3. 感情・心情・評価の文型

4. 不快・非難・軽蔑・不満の文型

5. 話者の判断・及び理性的評価を表す文型

6. 話者の推察を表す文型

7. 人や物の状態・性質を表す文型(1)

8. 中間テスト・フィードバック

9. 人や物の状態・性質を表す文型(2)

10. 義務・当然を表す文型

11. その他の文型(1)

12. その他の文型(2)

13. Review

14. 期末テスト

成績評価方法・基準

クラスへの参加度　30％,課題・宿題　30％,中間テスト　10%,期末テスト　30%

テキスト

プリント教材。

参考文献

授業で適宜紹介する。

準備学習・その他（HPなど）

テキストの予習を毎回の宿題として課す。その他,必要な準備学習については,毎回の授業で指示する。

科 目 名	Ｊ６―２（読解）		
担 当 者	春学期：数野 恵理（Kazuno, Eri）　秋学期：数野 恵理（Kazuno, eri）		
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各１単位

授業の目標

中級前半修了レベルの学習者を対象とする。一般的な事柄について書かれた文章を読めるようにする。文章の構成や展開をとらえながら，内容が理解できるようにする。 また，同じテーマについて異なる視点で書かれた文章を読み，それぞれの内容が理解できるようにする。さらに，読解を通して使用語彙，理解語彙を増やす。

授業の内容

説明文，エッセイ，新聞記事，小説など様々なスタイルの読解教材を取り上げ，読みのスキルの学習，内容把握などを行う。読んだ内容に基づいた話し合いや，内容を他の人に伝える練習も行う。また，文章の要約を授業で扱い，宿題として課す。さらに，語彙を増やすために，指定された語彙の小テストを行う。

授業計画

1. オリエンテーション，読み方について考える
2. 文章の構成に注意して読む
3. 文章の構成に注意して読む
4. 文章要約の練習
5. 説明文を読む
6. 説明文を読む
7. 新聞記事の構成
8. 新聞記事を読む
9. 新聞記事を読む
10. 意見文を読む
11. 意見文を読む
12. 小説を読む
13. 小説を読む
14. 期末テスト

成績評価方法・基準

クラスへの参加度　30％，課題・宿題　40％，期末テスト　30％

テキスト

プリント教材。日本語学習者向けの教材と生教材を併用する。

参考文献

授業で適宜紹介する。

準備学習・その他（HPなど）

必要な準備学習については，毎回の授業で指示する

科 目 名	Ｊ６―３（作文）		
担 当 者	春学期：嶋原 耕一（Shimahara, Koichi），　長島 明子（Nagashima, Akiko) 秋学期：金庭 久美子（Kaneniwa, kumiko），　井上 玲子（Inoue, Reiko)		
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各１単位

授業の目標

中級前半修了レベルの学習者を対象とする。これまでに学習した文型を使って,レポートや作文を書く力をつけることを目的とする。

授業の内容

レポートの構成について学習し，1,200字程度のレポートを書き,それについてのフィードバックを行う。きちんとした構成で文章が組み立てられているかを重視するため,最初は与えられた構成パターンに従いながらレポートを作成する練習を繰り返す。

授業計画

毎回,テーマごとに例となる文章を提示し,その文章の構成パターンに沿った文章を作成する練習を行う。さらに,自分の意見をまとめるだけでなく,長文を読み,その内容に基づいて自分の意見をまとめる練習も行う。また,論拠となる資料やデータを読み取り,要約し,レポート中に正しく引用する方法も練習する。具体的にはグラフや表の説明,引用の仕方,参考文献の書き方などを扱う。

授業計画は以下のとおりである。

1. オリエンテーション,プレレッスン
2. L1-①:内容理解とテーマの整理
3. L1-②:構成
4. L2-①:内容理解とテーマの整理
5. L2-②:構成
6. L1-③:フィードバック
7. L3-①:内容理解とテーマの整理
8. L3-②:構成
9. L2-③:フィードバック
10. L4-①:内容理解とテーマの整理
11. L4-②:構成
12. L3-③:フィードバック
13. まとめ
14. 期末テスト

成績評価方法・基準

クラスへの参加度　40％,課題・宿題　30％,期末テスト　30％

テキスト

プリント教材。課ごとに授業内で配布する。各課のテーマは以下の通りである。

「世界の高校生の意識調査」

「待機児童」

「メディア・リテラシー」

「裁判員制度」

など、4つのテーマを扱う。

参考文献

授業で適宜紹介する。

準備学習・その他（HPなど）

必要な準備学習については,毎回の授業で指示する。

科 目 名	Ｊ６―４（聴解・会話）		
担 当 者	春学期：藤田 恵（Fujita, Megumi），長谷川 孝子（Hasegawa, Takako） 秋学期：藤田 恵（Fujita, Megumi），草木 美智子（Kusaki, Michiko）		
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各１単位

授業の目標

中級前半修了レベルの学習者を対象とし,時事問題をテーマに聴解能力を育成すると同時に,それに対する意見を論理的に表明したり,相手や場面にふさわしい日本語を流暢に話したりできるようになることを目標とする。学期終了後には,語彙数10,000の習得を目指す。

授業の内容

聴解では,テレビやラジオのニュースで話される内容を正確に把握する練習を行う。

会話では,日常的なことがらや 社会問題を話題として,まとまった内容を相手にわかりやすく伝える練習や,相づちや聞き返しを用いながら相手の話を聞く練習を行う。

授業計画

ニュース教材を利用した聴解練習と,会話,発表,ディベートなどの発話練習を行う。

1. オリエンテーション・会話①
2. ニュース聴解①・スピーチ①
3. 会話②
4. ニュース聴解②・ロールプレイ①
5. 会話③
6. ニュース聴解③・スピーチ②
7. 会話④
8. ニュース聴解④・ロールプレイ②
9. ディスカッション①
10. ディスカッション②
11. ディベート導入
12. ディベート準備
13. 期末テスト1：ディベート実技
14. 期末テスト2：聴解

成績評価方法・基準

クラスへの参加度　30％,課題・宿題　40％,期末テスト　30％

テキスト

『ニュースの日本語聴解50』(スリーエーネットワーク)などを適宜使用する。その他必要な教材は配布する。

参考文献

指定せず。

準備学習・その他（HPなど）

必要な準備学習については,毎回の授業で指示する。発表準備やディベートのための資料収集などは授業内では行わないため,宿題となる。また,発音練習は教室内でも行うが,練習が不足していると思う場合は,教室外でも練習をすることが望ましい。

科 目 名	Ｊ７―１（文型・文法）		
担 当 者	春学期：小林 友美（Kobayashi, Tomomi） 秋学期：数野 恵理（Kazuno, Eri），嶋原 耕一（Shimahara, Koichi）		
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各１単位

授業の目標

中級修了レベルの学習者を対象とする。文学作品や専門的な雑誌記事,さらには公式なスピーチなどで用いられる高度な文型や表現を理解し,自分の会話や作文で流暢に使えるようになることを目指す。

授業の内容

文学作品や新聞,雑誌記事,専門書などから文型や表現を抽出し,それらのパターンや用法,ニュアンスの似ている文型の違いを理解するため,多くの例文に触れる。また,自分でそれらの文型や表現を使えるようになるまで,短文練習を繰り返し行う。

授業の流れは以下のようになっている。

Part1:新しい文型
1)既習の文法・文型項目の復習
2)新しい文法・文型項目の導入・説明
3)理解確認問題

Part2:覚えたほうがいい表現
1)新しい語彙や表現の導入・説明
2)理解確認問題

授業計画

毎回,10程度の新しい文型や表現を導入し,それについての練習を行う。毎回,テキストの予習と,新しく導入された文型を使った短文作成を宿題として課す。
全 14 回の授業計画は以下の通りである。

1. オリエンテーション,プレ・レッスン
2.「ながら／まま／つつ」を使った表現
3.「意向形」を使った表現
4.「ところ」を使った表現
5.「まで」を使った表現
6.「時」を表す文型①
7.「時」を表す文型②
8. 中間テスト
9.「時」を表す文型③
10.「時」を表す文型④
11.複合動詞
12. 副詞の呼応
13.Review
14.期末テスト

成績評価方法・基準

クラスへの参加度 30%, 課題・宿題 30%, 中間テスト 10%, 期末テスト 30%

テキスト

プリント教材。

参考文献

指定せず。

準備学習・その他（HPなど）

テキストの予習を毎回の宿題として課す。その他,必要な準備学習については,毎回の授業で指示する。

科 目 名	Ｊ７―２（読解）		
担 当 者	春学期：井上 玲子 (Inoue, Reiko) 秋学期：嶋原 耕一 (Shimahara, Koichi)， 神元 愛美子（Kamimoto, Emiko）		
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各１単位

授業の目標

中級修了レベルの学習者を対象とする。社会的,文化的背景が必要な文章を読めるようにする。文章の構成や展開をとらえながら,内容が理解できるようにする。 また,日常会話であまり使われないスタイルの文章に触れ,読みのスキルを伸ばす。

授業の内容

長文の読解,内容把握,語彙の理解確認などを行う。読み物の内容を説明したり,自分なりの視点を取り入れながら解釈をする練習も行う。また,文章の要約を授業で扱い,宿題として課す。

授業計画

1. オリエンテーション,新聞記事の構成
2. 新聞記事を読む
3. 新聞記事を読む
4. 新聞記事を読む
5. 新聞記事を読む
6. 新聞記事を読む
7. 論説文を読む
8. 論説文を読む
9. 論説文を読む
10. 論説文を読む
11. 小説を読む
12. 小説を読む
13. まとめ
14. 期末テスト

成績評価方法・基準

クラスへの参加度 30%,課題・宿題 40%,期末テスト 30%

テキスト

プリント教材。日本語学習者向けの教材と生教材を併用する。

参考文献

授業で適宜紹介する。

準備学習・その他（HPなど）

必要な準備学習については,毎回の授業で指示する。

科 目 名	Ｊ７―３（作文）		
担 当 者	春学期：数野 恵理（Kazuno, Eri），平山 紫帆（Hirayama, Shiho） 秋学期：藤田 恵（Fujita, Megumi），山内 薫（Yamauchi, Kaori）		
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各１単位

授業の目標

中級修了レベルの学習者を対象とする。これまでに学習した語彙や文型を使って,「作文」ではなく,レポートや報告書を書く力をつけることを目的とする。

授業の内容

大学レベルで必要とされる長文作成（レポートや調査報告書）のための練習を行う。具体的には,レポートの構成や機能（例示や引用,反論など）ごとにたくさんの例を示しながら,そこで使われる語彙や文型に触れ,1,500 字程度のレポートを作成する。単に自分の意見を書くだけでなく,文章を読み,それを理解したうえで,自分の意見を関連付けてまとめる練習を行う。

授業計画

毎回,決まったテーマに基づいて練習を行う。学期中には,ほぼ毎回,作文の課題,あるいは作文を書くための文章読解の宿題が課される。具体的な授業計画は以下のとおりである。

1. オリエンテーション,プレレッスン
2. L1-①:内容理解とテーマの整理
3. L1-②:構成
4. L2-①:内容理解とテーマの整理
5. L2-②:構成
6. L1-③:フィードバック
7. L3-①:内容理解とテーマの整理
8. L3-②:構成
9. L2-③:フィードバック
10. L4-①:内容理解とテーマの整理
11. L4-②:構成
12. L3-③:フィードバック
13. まとめ
14. 期末（きまつ）テスト

成績評価方法・基準

クラスへの参加度 40％,課題・宿題 30％,期末テスト 30％

テキスト

プリント教材。課ごとに授業内で配布する。1つのテーマを①内容理解とテーマの整理,②構成,という2課で扱う。各課のテーマは以下の通りである。

「日本の言語文化」

「コト消費」

「メールの言語表現」

「生命倫理」

など4つのテーマを扱う。

参考文献

授業で適宜紹介する。

準備学習・その他（HPなど）

必要な準備学習については,毎回の授業で指示する。

科 目 名	Ｊ７―４（聴解・会話）		
担 当 者	春学期：嶋原 耕一（Shimahara, Koichi），　高嶋 幸太（Takashima, Kota） 秋学期：山内 薫（Yamauchi, Kaori）		
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各１単位

授業の目標

中級修了レベルの学習者を対象とし,専門的な内容を含む聴解能力と会話能力の育成ならびに場面に適切な日本語の習得を目指す。生の教材を用い,社会問題,時事問題についても細部まで正確に把握し,流暢に意見が言えるようになることを目標とする。学期終了後には,語彙数 10,000～15,000 語の習得を目指す。

授業の内容

数多くの生教材を正確に理解することによって,流暢さと的確さを高める。「教育」や「高齢化」等に関するビデオを視聴しながら語彙,表現を増やすと同時に,細部まで内容を把握することにより,日本社会の問題や日本事情について学んでいく。その後,ディスカッションやプレゼンテーションを通じ,「きちんとした日本語」で他者と意見交換したり,時事問題や社会問題について大勢の人の前で発表したりする能力を高めていく。

会話では,「交渉する」「互いの視点の違いを理解して話す」「社会的背景に配慮して話す」の 3 つのテーマを取り上げ,発話練習を行う。

授業計画

社会問題,時事問題を扱った生教材(ビデオ)を利用した聴解練習と,会話,ディスカッション,プレゼンテーションなどの発話練習を行う。以下 14 回の授業計画を示す。

1. オリエンテーション,DVD(社会問題①)
2. DVD(社会問題①),会話1:交渉する
3. DVD(社会問題①),会話1:交渉する
4. DVD(社会問題②),会話1:交渉する
5. DVD(社会問題②),会話2:視点の違いを理解する
6. DVD(社会問題②),会話2:視点の違いを理解する
7. DVD(社会問題③),会話2:視点の違いを理解する
8. DVD(社会問題③),会話2:視点の違いを理解する
9. DVD(社会問題③),会話3:社会的背景に配慮する
10. DVD(社会問題④),会話3:社会的背景に配慮する
11. DVD(社会問題④),会話3:社会的背景に配慮する
12. DVD(社会問題④),会話3:社会的背景に配慮する
13. 期末テスト1:口頭表現
14. 期末テスト2:聴解

成績評価方法・基準

クラスへの参加度　30%,課題・宿題　40%,期末テスト　30%

テキスト

『日本語超級話者へのかけはし』(スリーエーネットワーク)などを適宜使用する。

参考文献

授業で適宜紹介する。

準備学習・その他(HPなど)

必要な準備学習については,毎回の授業で指示する。ディスカッションやプレゼンテーションのための準備は授業内では行わないため,宿題となる。また,発音練習は教室内でも行うが,練習が不足していると思う場合は,教室外でも練習をすることが望ましい。